



果樹特報

今回の内容：梅雨明け後・盆前・盆中の薬剤散布

令和元年 7/17 号

No.6

J A 中野市営農センター

J A 中野市りんご・もも部

しばらく日照不足・低温・多湿状態が続く見込みです。引き続き、一定の間隔で薬剤散布を進めてください。尚、梅雨明け後はハダニ類が急増します。散布量は多めに設定し、死角が出ないようにご注意ください。

りんご 7月下旬の薬剤散布（定期）：前回より15日後

散布時期：7月20～25日 *梅雨明けが早まった場合は前倒し散布へ

散布薬剤：水 100ℓ
展着剤 10ml
ダニコングフロアブル 50ml（前日、1回）
劇 オリオン水和剤40 100g（前日、2回）
オキシラン水和剤 200g（14日前、4回）

散布日：7月 日

散布量：ℓ

梅雨明け直後（定期）

散布量：10a当り 600ℓ

対象病害虫：輪紋病、炭そ病、褐斑病、斑点落葉病、ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類

注意事項

- 【重要】オリオン水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑を持参してください。
- 機能性展着剤のササラの2000倍を使用すると薬液が葉裏（毛じ間）によく広がり、散布後の乾きも早くなる効果がある。
- 【重要】褐斑病対策：ベンレート水和剤2,000倍（前日、4回）を加用する。
- 【次年度花芽充実対策】葉面散布資材「葉友」2,000倍を加用する。 *以降の散布時（8月）も加用可能

りんご 8月上旬の薬剤散布（定期）：前回より15日後

散布時期：8月5～10日 *ハダニ類の発生が目立つ場合は前倒し散布へ

散布薬剤：水 100ℓ
展着剤 10ml
コロマイト乳剤 100ml（前日、1回）
エクシレルSE 20ml（前日、3回）
ダイパワー水和剤 100g（前日、3回）

散布日：8月 日

散布量：ℓ

お盆前（定期）

散布量：10a当り 600ℓ

対象病害虫：輪紋病、炭そ病、褐斑病、斑点落葉病、ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ

注意事項

- 【重要】褐斑病対策：ベンレート水和剤2,000倍（前日、4回）を加用する。
- 機能性展着剤のササラの2000倍を使用すると薬液が葉裏（毛じ間）によく広がり、薬液の乾きも早くなる効果がある。
- シンクイムシ類・カメムシ類対策：エクシレルSEに代えて、バリアード顆粒水和剤2,000倍（前日、3回）を使用してもよい。尚、バリアード顆粒水和剤は劇物登録のため、購入の際は印鑑をお持ちください。
- ダイパワー水和剤・ベフラン液剤に含まれる有効成分（イミノクタジン）の使用は開花期以降年間3回迄です。
- つがる軟化防止対策：液状カルシウム資材「セルキープ」の1,000倍を加用する。（価格：1,835円/ℓ規格⇒約1,000ℓ分）

りんご 8月中旬の特別散布：前回より7日後

散布時期：8月12～15日 *真夏のシンクイムシ類の食入防止対策

散布薬剤：水 100ℓ
展着剤 10ml
劇 バリアード顆粒水和剤 50g（前日、3回）

散布日：8月 日

散布量：ℓ

お盆中（特散）

散布量：10a当り 600ℓ

対象病害虫：シンクイムシ類、カメムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

注意事項

- 【重要】バリアード顆粒水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- 機能性展着剤のササラの2000倍を使用すると薬液が葉裏（毛じ間）によく広がり、薬液の乾きも早くなる効果がある。
- ハダニ類対策：オマイト水和剤750倍（3日前、1回）を繰り返して混用してもよい。尚、ナシ類には登録がないので飛散しないように注意する。

【重要】つがる落果防止剤使用方法等は次項をお読みください。



➡ つがる等の落果防止剤の散布について

- ① 対象品種：つがる
- ② 使用薬剤：ストップール液剤
- ③ 使用時期：収穫開始予定の 25～7 日前（2 回以内）
- ④ **使用倍率：1,500 倍 ⇒ 水 100 リットルに 66ml・展着剤は加用しない**
- ⑤ 散布量：500～600 リットル／10a
- ⑥ 散布時期：収穫開始予定の 15 日前に 1 回散布処理

● 目安：8/5～10 頃

- 収穫前規制のため、収穫開始は散布後 7 日間経過後とする

◆ 注意事項

- ① **展着剤は加用しない。**
- ② **単用散布を厳守する** ⇒ 他剤との混用は絶対にしない。
- ③ **乾燥条件下では効果が低減するので、定期的なかん水を行い、園地内の湿度を上げる等の対策を図る。**
- ④ 他品目、特に野菜等に飛散しないように注意する ⇒ 生育障害・薬害発生の恐れあり
- ⑤ 落果防止剤を散布すると熟度が早まり、果肉軟化を助長しやすいので、過熟果発生に注意して収穫を進める。

➡ つがる等の着色管理について

- ① 日焼け果防止対策：果実温の高い日中に作業を行い、早朝や夕方、果実温の低い時間帯には行わない。
- ② 徒長枝切りや枝つり、支柱立てを早めに行い樹冠内部への光の導入を図る。
- ③ 葉摘み：収穫の 7 日前位（8/20 前後）から始める ⇒ 日焼けを助長するため、あまり早期に実施しない
 - 1 回目：日焼けに注意しながら、果実に密着している果そう葉を中心とした軽い葉摘みを行う。
 - 2 回目：着色の様子を見ながら玉回しと合わせて実施する。（収穫直前頃）
- ④ 一度に強い葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意する。
- ⑤ 玉回し：果実が 30% 程度着色したら 1 回目を実施 ⇒ その後に収穫直前頃の葉摘みと併せて 2 回目を実施する。
- ⑥ 直射日光の当たる部分の葉摘み、玉回しは実施しない。

【収穫時の注意】

- ① 着色のみではなく尻部の地色の抜け具合も注意する。つがるの収穫は高温時であるため、過熟果の発生がないよう熟度を考慮しながら行う ⇒ 着色ではなく鮮度重視とする
- ② 同一の樹のなかでも果実により熟度の差があるので、数回に分けて収穫する。
- ③ 鮮度保持対策：日中の高温時の収穫は出来るだけ避ける。収穫した果実は日陰などの涼しい場所に保管する。

【灌水・土壌管理】

- ① 高温・干ばつにより土壌水分の蒸散が激しい場合は灌水を行い、園地内湿度を一定に保つ。尚、雨が 5 日以上ない場合は、1 回のかん水量を 20～35mm 目安に実施する。
- ② 水分不足は果実肥大に影響し、水分ストレスはつる割れ果等の発生を助長する恐れがあるので注意する。

➡ 着色資材の使用例

- 対象：つがる
- 下記資材は全て定期散布に混用可能です。選択により使用してください。詳しくは担当技術員までお問い合わせください。

商品名	使用目的	倍率	使用時期	500 リットル当り 薬剤費	定期散布 農薬混用
彩色甘味 （おすすめ！） @2,700 円/500g	着色促進 糖度向上	1,000	7 月下旬・8 月上旬 （収穫予定 30 日前と 15 日前の 2 回連続散布が効果的）	2,700 円	可
モーニング エース @4,320 円	着色促進 品質向上	500	7 月下旬・8 月上旬 （収穫予定 30 日前と 15 日前の 2 回連続散布が効果的）	8,640 円	可



↑ JA 中野市 早川 LINE QR

果樹特報 No7 発行予定：8/19（月）

- ◆ 8 月下旬（8/20～25） ＊お盆明け
- ◆ 9 月上旬（9/5～10） ＊秋雨前
- ◆ 9 月下旬（9/20～25） ＊秋映収穫前

園芸課技術員はスマートフォンを携帯しています。LINE 等でも質問・要望受付中です。お気軽にお寄せください。